

# ふるさとへぐり再発見

## － 幻の城「高安城」(2) －

23



前回書いたように高安城に直接結び付く遺構は多くありません。倉庫と考えられている礎石<sup>そせき</sup>建物群と、この近くで発見された土塁だけです。

礎石建物は 6 棟発見され、高安山から南東に延びる尾根より北西に分かれた支尾根に建てられていました。

礎石は東西 5 個、南北に 4 個が碁盤の目に並べられ、建物の壁部分だけでなく床下にも柱が並び、重い収納物を支える構造で、高床式の倉庫となっています。

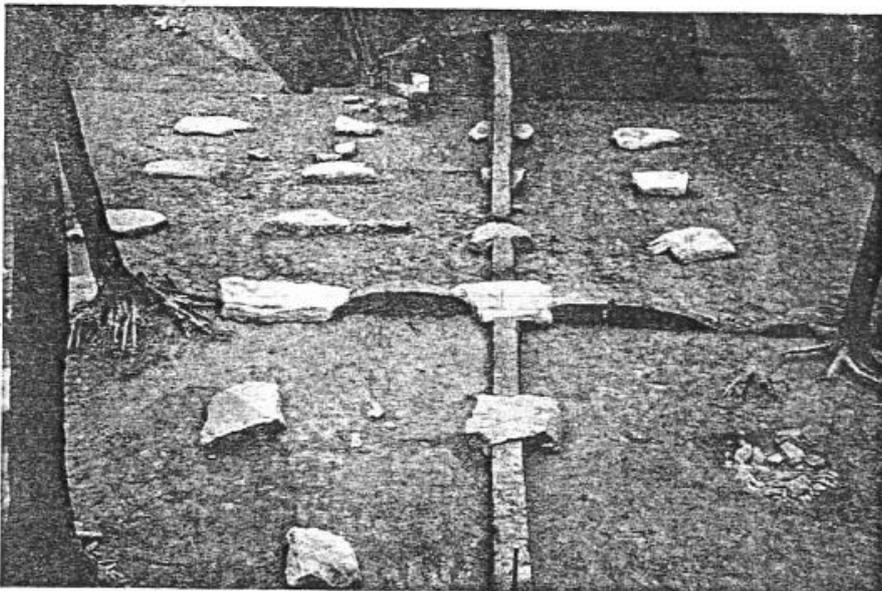
また、周囲には地面に直接柱を埋めた柱穴もあり、深い<sup>ひさし</sup>庇を支えたか<sup>おおいや</sup>覆屋のある二重構造であった可能性が指摘されています。いずれにせよ、収納物を湿気から厳重に守るための施設であったことが伺えます。

ところで、発掘された礎石建物の時期は出土遺物より天智天皇の頃でなく奈良時代前期のもので瓦も使用されていませんでした。

このように、文献に出て来る高安城の使用年代と大きなずれがあり、<sup>じんしん</sup>壬申の乱において倉庫群が焼けたとされるが発見された礎石建物は焼けていないため、これ以降に建てられた倉庫群とする解釈もあります。

大阪府側でも高安山付近の発掘調査が実施されましたが、古墳や中世の高安山城の遺構が確認されただけで高安城に結び付くものはみつきませんでした。

東京帝国大学の関野博士が高安城の範囲を発表してから 70 年余り経ちましたが、高安城から「幻」の文字は取れていません。



倉庫の礎石 (2号)

近年、城域推定地内の開発が増加しており、遺構の破壊が心配されています。

「幻」のまま消滅してしまわないよう対策をたてる必要に迫られています。